

つるがしま里山サポートクラブ 活動報告書（令和5年度）2023

活動日時	月	日	曜日	開始	終了	場 所	会員参加数
	12	25	月	9:00	15:00	大森農園	8名
		28	木	10:00	11:00	五味ヶ谷の市民の森	3名
活動名称	高倉の森ご神木の注連縄製作 五味ヶ谷の森参道注連縄製作及び設置					報告者：杉山行汪	

1、活動目的

今回で3回目となる高倉の森のご神木に飾る注連縄の製作、2回目となる五味ヶ谷の森入り口の注連縄の製作・設置、稲荷神社・御岳神社の注連縄の製作・設置を行う。尚、高倉の森のご神木の注連縄設置は、新年の第1回目の活動日に行う。

2、活動内容ほか

この行事の始まりからの経緯を回顧します。

高倉の森のご神木の注連縄は、大森さんの発案で始まったものである。第1回は材料である畳表をほぐす作業、それを注連縄に巻き上げる作業を15人がかりで行った。大森さんの掛け声に合わせて全員が心をつにして作業し、大いに盛り上がったが、肝心の森の整備活動はその他の会員がすることになり反省点になった。2回目は製作方法に改善がなされ数人で製作した。今回は更に改善を進めたことと、事前に製作し、新年の活動日は設置するだけにした。

五味ヶ谷の森については、森を通り抜ける道を2つの神社（祠）の参道と見立ててその入り口に注連縄を飾ることとし、こちらは設置まで行った。尚、注連縄を支える竹柱の裾飾りは28日に行った。

3、評価：

製作する注連縄は、製法の改善により必要とする作業者の人数は減少したものの大型化の傾向にあり、一層立派な出来栄えとなった。これにより、新年第1回目の高倉の森整備作業が進むと思う。注連縄に垂らす紙製の紙垂（しで）の形は様々であるが、鶴ヶ島の村社である高德神社の形にこだわって作成している。

こうした飾りつけは、宗教行事であると捉える異論もあろうかと思う。単なる風習とみなすかどうかは会員の意見を、たとえ少数であっても尊重しながら継続していったらよいと思う。

尚、五味ヶ谷の森については、注連縄飾りは地主様との良好な関係構築に貢献している。

<参加会員> 12/25(左から) 松下、村上、小澤、阿部、柳川、小沼、大森、杉山、
12/28(左から) 小沼、杉山、(大森)

<活動写真>



